

金沢ストリートサッカーのルール

(ローカルルール)

各クライフコートでは、以下の共通のルールを守って、サッカーをしなければなりません。これらのルールはヨハン・クライフのストリートサッカーに関する哲学と一致しています。

1. 競技人数

各チームの競技人数は男子6名または女子6名で、そのうち1名はゴールキーパーです。交代要員は4人までで、年齢の上限は12歳です。選手の年齢について疑義がある場合は身分証明書を提示しなければなりません。

2. ゴールキーパー (フライング・ゴリー)

ゴールキーパーもフィールドプレーヤーと同じように競技ができます。ただし、ゴールキーパーはゴールから出た場合、手でボールに触れることはできません。ゴールキーパーには、キックインは認められていないため、スローインをしなければなりません。フィールドプレーヤーがゴールキーパーへボールを返した場合、ゴールキーパーは手でボールに触れてはいけません。

3. 試合時間 (ローカルルール)

試合時間は14分間(1本です、前後半戦はありません)。

4. 得点 (ポイント) (ローカルルール)

勝利:	3ポイント
引き分け:	1ポイント
敗北:	0ポイント

複数のチームの得点(ポイント)が同点で終わった場合、勝者は以下の3つの方法で決まります。(リーグ戦)

1. 得失点差
2. 総得点
3. 当該チームの勝敗

相手チームが現れない場合：

5対0で不戦勝となります。

決勝トーナメント(ローカルルール)

試合が同点で終わった場合はペナルティーキックで勝者が決まります。試合終了後直ちに3人制のPK戦をゴールから大股で9歩(9m)の位置から行います。両チームの得点と同じ場合は、サドンデスで実施します。



5. アウトオブプレー(ローカルルール)

クライフコートフェンスは試合の一部です。つまり、もしボールがフェンスに当たっても、アウトオブプレーと見なされず、試合は続行します。ボールがフェンスを越えた場合は、アウトオブプレーとなり試合はキックインにより続行します。キックインから直接得点することはできません。

試合中コーナーで競り合いフェンスのせいでコーナーにボールが動かなくなった場合(2,3秒)一度、試合を止めてディフェンス側のキックオフで再開します。

6. ゴール

ボールがゴールラインを超えたらゴールとなります。ゴール後は、試合はフィールドの中央からのキックオフで再開します。

7. フリーキック (ローカルルール)

試合中反則をすると相手側にフリーキックを与えられます。オフサイドはありません。フリーキックからは、直接得点できません。フリーキックを行う場合、ゴール近くであってもゴールから9歩(9m)以上離れなければなりません。フリーキックはすべて間接フリーキックになりますので審判は片手を上げて再スタートしてください。

8. ペナルティーキック

ゴールから4メートル以内でのファウルは、ペナルティーキックになります。ペナルティーキックは、ゴールから9歩(9m)離れて行います。ペナルティーキックに失敗した場合、ゴールキーパーはスローインで、試合を続行します。ペナルティーキックのリバウンドでは、得点できません。

9. キックオフ(ローカルルール)

対戦プログラムの左側に名前のあるチームがキックオフを行います。

10. フェアプレー

- 試合の前後には、対戦相手と握手を行い、フェアプレーを心掛けます。
- 審判員、選手または観客に対して大声で叫んではいけません。
- スライディングタックルはしてはいけません。
- チームが試合に対する妨害行為などをした場合、審判員によって罰せられます。

フェアプレー賞の出発点は、ヨハン・クライフの14か条のルールです。

ただし、下記の条件も考慮に入れます。

- 勝敗の結果を受け入れること
- フィールド外での振る舞い
- チームやファンなどによる積極的な応援



11. 審判員（ローカルルール）

2人制の審判を配置します。第一審判はコート内、第二審判は本部席内でタイムキーパーとして開始終了の笛を吹きます。主審が見落とした審判を行いホイッスルを本部席から吹きます。

12. スライディングタックル

スライディングタックルをしてはいけません。スライディングタックルをした場合は、相手側のフリーキックになります。

13. 靴

運営機関の定めた安全基準に合致している限り、どのような種類の靴を使用しても構いません。

14. 運営機関

もしこれらのルールで対処できない状況が発生した場合は、運営機関が最終決定権を有します

